



JICA/KITA研修コースの閉講式で研修員と一緒に記念撮影

研修員からの便り

【帰国研修員のフォローアップ】

- 1) 紹介者 : コースリーダー 小杉 允
- 2) 現地便り : 帰国研修員 ①Mr. Liupcho KARAJANOVSKI
②Ms Natasa DOKIC

2013年11月20日

(公財) 北九州国際技術協力協会 研修部

～「南東欧地域でのクリーナープロダクション振興」を 目指して活動する帰国研修員の母国での活躍～

今回、ご紹介します帰国研修員便りは、マケドニアから参加された Mr. Liupcho KARAJANOVSKI (リュプチョさん)とセルビアから参加された Ms Natasa DOKIC (ナタシャさん)の母国での近況報告です。JICA/KITA 研修コースを担当された小杉コースリーダーより帰国研修員の活躍を紹介して頂きました。

記 KITA HP編集員

1. 帰国研修員の紹介



2. 小杉コースリーダーからのコメント



このコースは不幸な紛争から立ち上がり、EU加盟を最優先の国家目標として立て直しを図るアルバニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モンテネグロ、セルビア、クロアチア、マケドニア旧ユーゴスラビア諸国に対しクリーナープロダクション（CP）導入を支援する目的で設立されました。いずれも経済発展が遅れ、生産性や環境、インフラ整備に大きな問題を抱えています。昨年10月に開講された（第2回）では、日本でのCP取組の経験や

中小企業トップの体験を紹介し、CPの浸透には地道な努力が必要なることを認識してもらいました。この研修から帰国後に様々な提案が行われ実行されていますが、紙面の都合で二つの例を紹介します。ナターシャやリュプチョさん以外の研修員の計画も、今回の研修で得られた多くの情報知識がベースに活かされています。研修員が地道に自国の発展のために学んだことを生かそうとしている姿は素晴らしいと思います。

3. 帰国研修員 (Mr. Liupcho KARAJANOVSKI) の活動状況



リュプチョさんは、マケドニア旧ユーゴスラビア国立クリーナープロダクショセンターの国家専門員です。CPを普及させる教育の在り方に強い関心を示していました。帰国後所属機関と相談しすぐにCP推進のワークショップを開催しました。①大学において今回の研修で学んだことを中心に「CP概念と日本の経験」とするワークショップを開催しました。②環境省・経済省と共同して民間企業のため「CP概念とエネルギー効率推進」のワークショップを開催しました。中心産業である鉱業を対象にして今後もワークショップを継続予定です。彼は、特にこれから国の人財になる若い学生や産業人へのCP概念の指導を強く意識していました。日本の文化にも強い関心を示し、休日には日本の若者との交流を楽しんでいました。日本での経験を伝えるCPセンターでの活躍を期待しています。

H24年南東欧CP振興コース/リュプチョさんへ小杉CLからのコメント

アクションプランで整理したCPの推進、3Rテクノロジーの強化は順調に実施されていることが分かりました。特に若い産業人、学生に研修の経験を指導されているのは心強く感じます。水処理の問題はまだ手がついていないようですが、研修で作ったネットワークを活かして情報収集を続けることが大切だと思います。日本の発表会で歌われた「さくらさくら」の歌のように大きな効果がでることを期待しています。



リュプチョさんの帰国後ワークショップでの講義風景



JICA/KITA 研修で訪問した北九州市一般環境 大気測定局

4. 帰国研修員 (Ms Natasa DOKIC) の活動状況



ナターシャさんは、ベオグラード市の環境保全事業計画を担当する管理者です。彼女はアクションプランの段階からCP普及を狙った環境保護について試算を行い、市への提案書を準備しました。帰国後すぐに所属機関に行動計画と財政計画書を提出し、素早くプロジェクトを準備しながら市議会の認可を待っているところです。特に教育効果を狙ったプロジェクトが印象的です。以下に

内容の一部を示します。

1. CPの概念を市民に普及するためのプロジェクトの立ち上げ
 - ①学校の照明のLED化により防犯とエネルギー効率促進を示す。
 - ②バイオマス推進のための市内の植物廃棄物を集めエネルギー源とする。
2. ベオグラード市の環境保護のためのプロジェクト
 - ①緑化地域の設置により包括的な緑地管理や環境保護のための地域データを集積し市民に提供する。
 - ②大気汚染をバイオモニタリングで監視するネットワークづくりを強化する。

彼女は研修員のまとめ役を果たすなど良いリーダーシップの持ち主です。「挑戦には絶えず困難が伴うが、教えられたように頑張ります」と語っています。今後の活躍に期待しています。

H24年南東欧CP振興コース/ナターシャさんへ小杉CLからのコメント

環境保護のために大変な量の仕事に携われ精力的な行動に感心しています。日本でも珍しいコケを使ったバイオモニタリングなどを使用して環境ネットワークの構築を目指すのは大変有益だと思います。アクションプランで整理した課目が役立っていますね。財源の問題がありますが、このような成功体験を時間をかけて続けることが大切だと思います。



JICA/KITA 研修時の講義終了後のスナップ

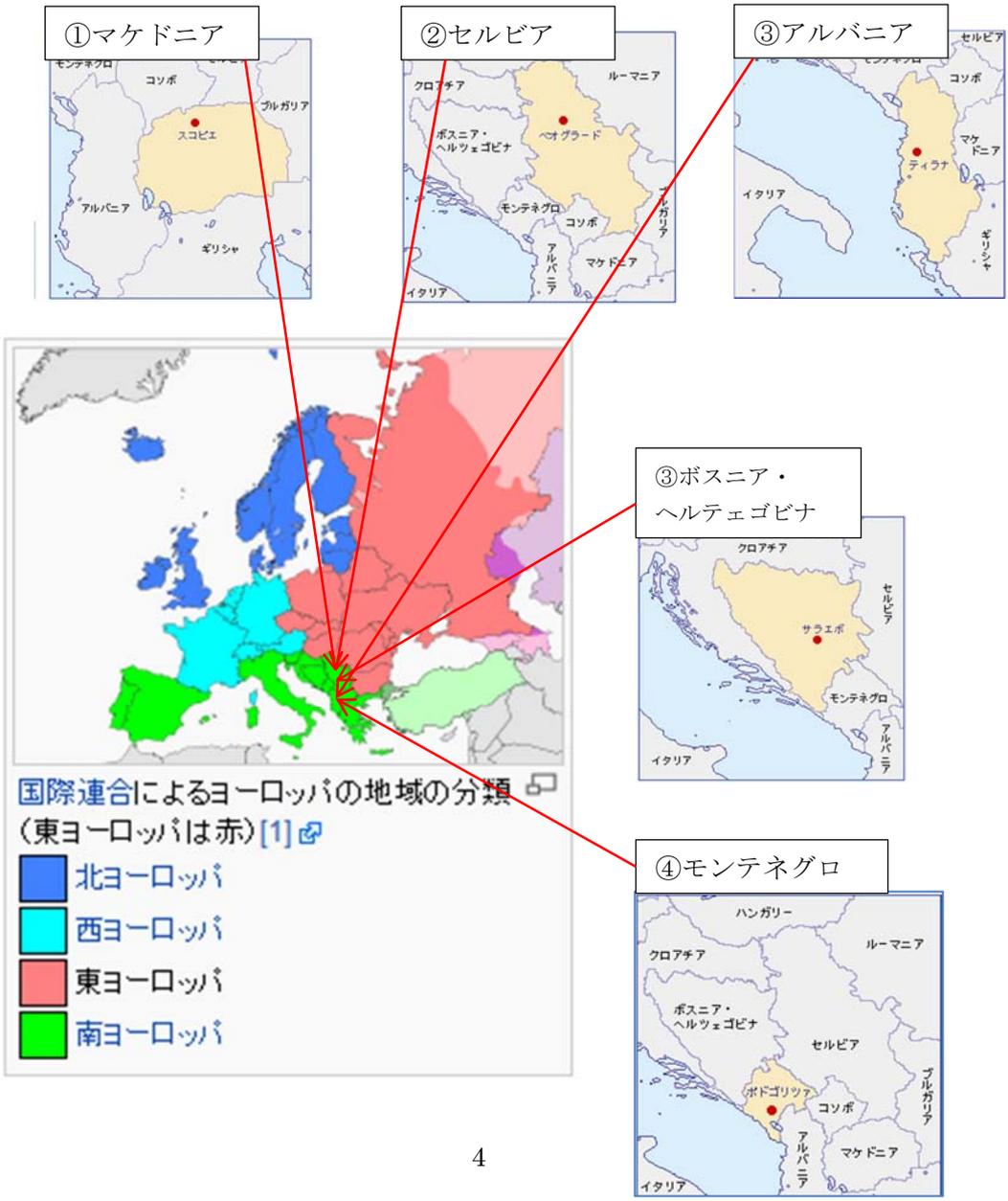


JICA/KITA 研修時の見学コース

5. 帰国研修員が受講した研修コースの概要紹介

- (1) JICA研修コース名 和文 「南東欧地域クリーナープロダクション振興」
 英文 Promotion of Cleaner Production for Southeast European Countries
- (2) コースリーダー 小杉 允
- (3) 研修期間 2012年9月18日 ～ 2012年10月26日 (38日間)
- (4) 参加した研修員 8名 (参加国5カ国)
 ①マケドニア(3) ②セルビア(1) ③アルバニア(1)
 ④ボスニア・ヘルツェゴビナ(2) ⑤モンテネグロ(1)

JICA/KITA研修に参加した研修員の国々

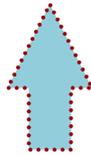


6. 「南東欧地域クリーナープロダクション振興」コースの研修全体概念図

上位目導

研修員所属組織において、クリーナープロダクション振興計画が策定される。

自国での検討～実施



日本での研修



単元目標（1）

クリーナープロダクションの定義・概念・普及に係る官民の役割等を理解する。

単元目標（2）

クリーナープロダクションに係る知識・技法・普及例を理解し、説明できる。

単元目標（4）

クリーナープロダクション振興のためのアクションプランが提案される。

単元目標（3）

地域振興や中小企業の経営強化に有効な手法、日本の文化・習慣について理解する。